

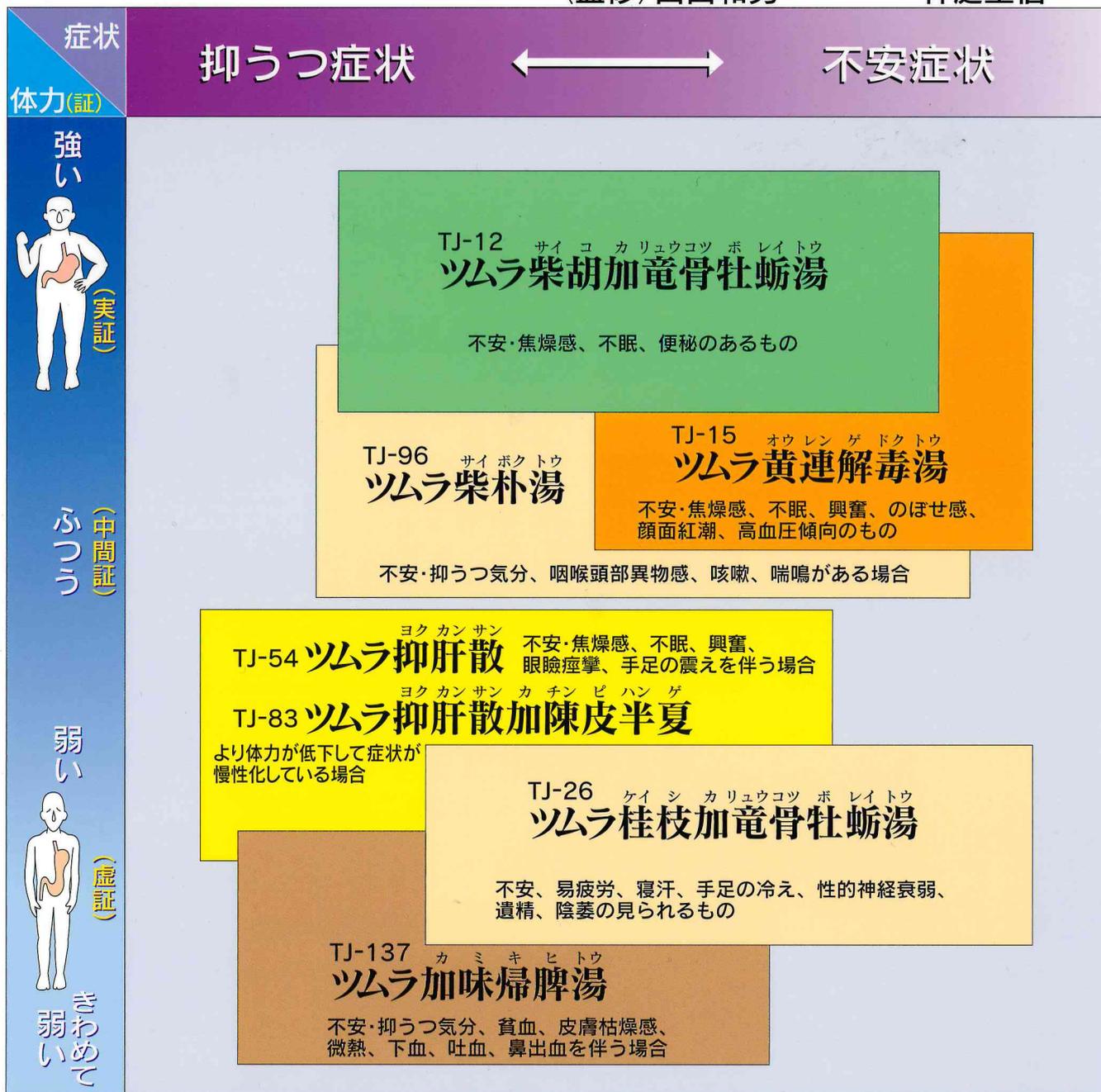
# 神経症の漢方治療ABC

東京女子医科大学東医療センター  
精神科准教授

九州大学大学院医学研究院  
精神病態医学教授

〈監修〉山田和男

神庭重信



\* 神経症という病名は、あいまいな概念であるため精神医学では用いない傾向にある。DSM-IV(米国精神医学会、精神疾患の診断・統計マニュアル、第4版)において神経症という診断名はないが、DSM-IV分類における全般性不安障害(不安神経症)、気分変調性障害(抑うつ神経症)、パニック障害、恐怖症、強迫性障害(強迫神経症)、身体表現性障害(心気神経症など)、転換性障害や解離性障害(ヒステリー)、離人症性障害(離人神経症)などを指すと考えられる。(カッコ内は旧名称)。

## 漢方治療のポイント

- 全般性不安障害(不安神経症)、気分変調性障害(抑うつ神経症)→漢方治療に適している。
- 神経症の中でも強迫性障害(強迫神経症)や恐怖症、パニック障害に対しては漢方薬のみでなく、向精神薬、精神療法との併用が望ましい。
- 身体表現性障害(心気神経症など)はあまり有効な治療がなく漢方薬が効果的であることがある。抑うつを合併しない例では漢方薬治療を考慮する。(SSRIなど抗うつ薬は適応ではない場合が多い)。
- 精神症状のみならず、身体症状を重視する。
- 向精神薬から漢方薬への切り替えは困難なことが多いので、急激な向精神薬の中止は不可。

## 図の見方

- ◆ 漢方処方では証(体質・症状)に合った処方選択が重要なポイントとなります。
- ◆ 縦軸の証に合わせ、横軸の目安となる所見に適した処方を選択します。

■ 上記の処方以外に、TJ-24加味逍遙散(更年期の女性)、TJ-11柴胡桂枝乾姜湯(風邪をひきやすい者)、TJ-35四逆散、TJ-16半夏厚朴湯、TJ-41補中益気湯、TJ-54抑肝散(TJ-83に比べ慢性化してないもの)、TJ-8大柴胡湯、TJ-116茯苓飲合半夏厚朴湯などが使用されます。

※効能又は効果、使用上の注意等は裏面をご覧ください。

# 12 ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯

サイ コ カ リ ム コ ツ ボ レ イ ト ウ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状のあるものの次の諸症：  
高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

# 15 ツムラ黄連解毒湯

オウ レン ゲ ドク トウ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
比較的体力があり、のほげ気味で、いらいらする傾向のあるものの次の諸症：  
咯血、吐血、下血、脳溢血、高血圧、心悸亢進、ノイローゼ、皮膚癢痒症、胃炎

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 著しく体力の衰えている患者 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

# 26 ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯

ケイ シ カ リ ム コ ツ ボ レ イ ト ウ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているものの次の諸症：  
小児夜尿症、神経衰弱、性的神経衰弱、遺精、陰萎

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

# 54 ツムラ抑肝散

ヨク カン サン  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
虚弱な体質で神経がたかぶるものの次の諸症：  
神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者 (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2010年7月改訂)

# 83 ツムラ抑肝散加陳皮半夏

ヨク カン サン カ チ ン ビ ハ ン ゲ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
虚弱な体質で神経がたかぶるものの次の諸症：  
神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者 (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

# 96 ツムラ柴朴湯

サイ ボク トウ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、時に動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：  
小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、せき、不安神経症

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 著しく体力の衰えている患者 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

# 137 ツムラ加味帰脾湯

カ ミ キ ヒ ト ウ  
エキス顆粒(医療用) 薬師基準収載  
**効能又は効果**  
虚弱な体質で血色の悪い人の次の諸症：  
貧血、不眠症、精神不安、神経症

**使用上の注意(抜粋)**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)  
薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤  
4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)